

ガイドブックとはかなり話が違う。  
深い根曲がり竹の藪が続き、斜面の上側からの倒木が道をふさぐ。沢で1日  
ビバークをした後、猛烈な藪を漕ぎ中  
吾妻山を乗り越え引き返した。

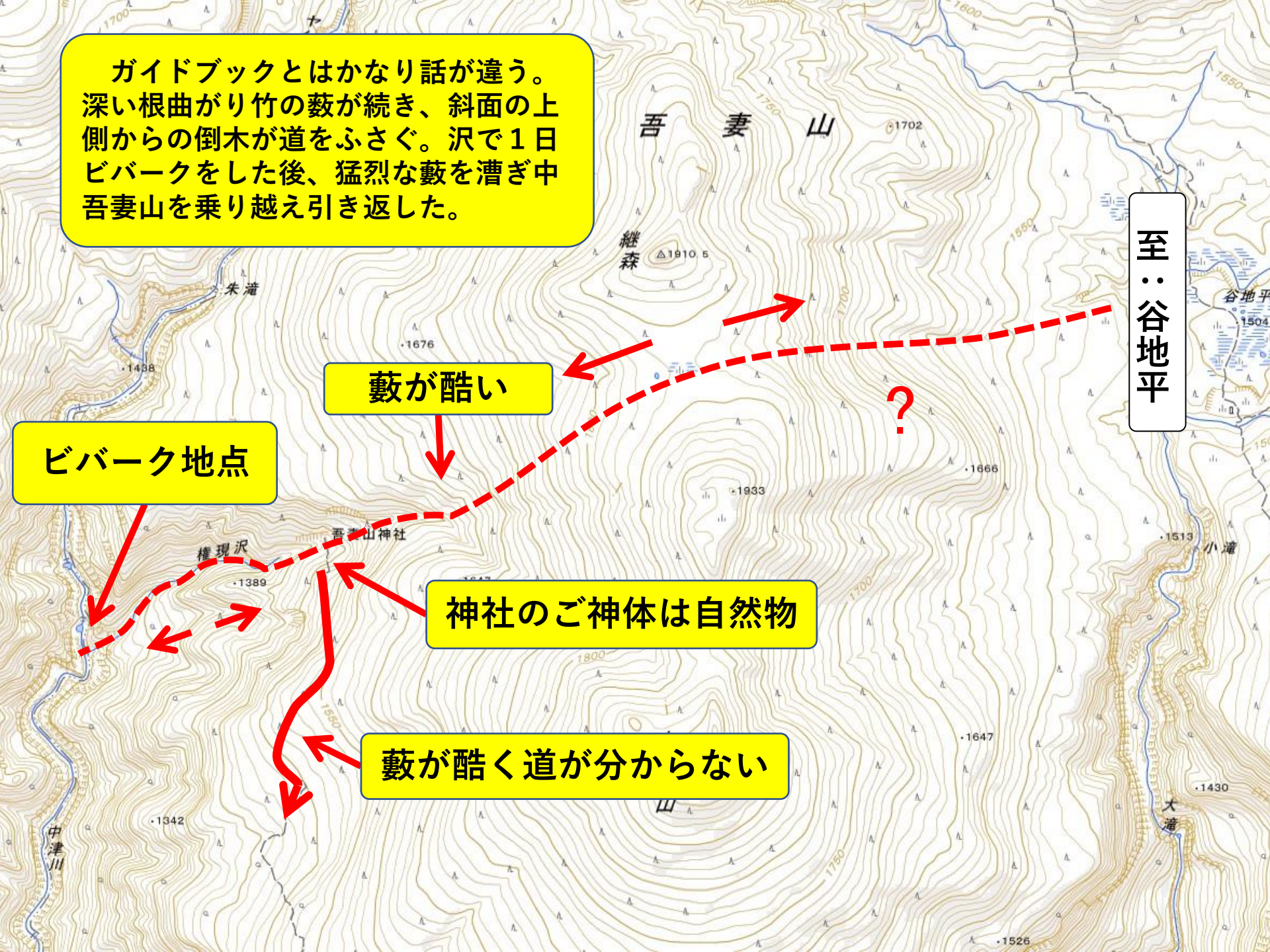
至…谷地平

藪が酷い

ビバーク地点

神社のご神体は自然物

藪が酷く道が分からない





「浄土平→谷地平→中吾妻への山道へと登っていくと、ガイドブックとはかなり話が違う。深い根曲がり竹の藪が続き、斜面の上側からの倒木が道をふさぎます。中吾妻山の乗り越しから、いよいよ中津川の谷に向かって下降を始めると、踏み跡は笹藪の中に消えてしまい、猛烈な藪こぎになりました。地図上の枝沢（権現沢）の上部を横切る場所で、いったん踏み跡を確認したものの、対岸の登り返しでまた猛烈な藪に。とにかく方角だけは間違えないようにほぼ西へ、下降を続けました。ときどき倒木があると、上に乗って地形の確認。権現沢を下流部で渡る地点が近いと判断して、この枝沢に再び下降しました。ものすごい藪を重力にまかせて上から押しつけて、ともかく下へ。ようやく権現沢の沢床へ降り立ちました。私たちは、この時点で初めて、自分たちが引き返すのもたいへんな道迷いに直面していることに、気づかされたのでした。」

（※道迷いに気づくまでは、がむしゃらの行動をとる場合が多い。注意したい。）

「ビバーク地点で見つけた踏み跡を頼りに、中吾妻を登り返すことに決めました。しかし、登り返しの藪コギが待っています。その踏み跡は、すぐに消失して、2時間余りの彷徨。ようやく、前日に使った、とぎれとぎれの踏み跡に出ることができました。」

（※登り返しの藪漕ぎが困難でも解決の近道がこの行動！）

「吾妻山神社を、私たちは現在地確認のため探したのですが、記録によると神社は人工物ではなく、沢の岩と釜などが「御神体」でした。そのことを事前に知っていれば、地図で想定した現在地にもっと自信が持てたと思うし、「御神体」も発見できたかもしれせん。」（HP参照）

（※は筆者コメント）